

## ■ 中間考査に向けて

10月2日(月)から10月5日(木)まで2学期中間考査が実施されます。今年度は9月9日(土)の前夜祭は大雨の影響で延期されることになったものの、9月10日(日)に昌平祭が開催され、9月7日(木)の午後から9月8日(金)にかけて最終の準備が行われました。また、9月11日(月)は昌平祭にともなう振替休日、9月18日(月)と9月23日(土)は祝日(※9月23日は特進コースの平常授業がなくなりました)と、夏休みが明けてから落ち着いて学習に取り組める時間が少なかったのではないかと思います。したがって、試験範囲も必ずしも広くない科目も多いのではないかと思います。1週間後に迫りましたので、しっかりと準備をして臨むようにしましょう。3年生諸君は当然として、1・2年生諸君も3年生になってから後悔することのないよう、着実に積み重ねていくことが大切です。3年生の9月初旬には、「指定校推薦」の受験者を決定する会議が行われますが、若干数字が届かなくて指定校推薦での受験をあきらめざるを得ない生徒も例年見られます。日頃の授業、定期考査をぜひ大切にしていきましょう。



## ■ 就職試験受験状況

9月16日(土)から3年生の就職希望者の採用試験が解禁となり始まっています。この数年、採用試験の時期がいわゆるシルバーウィークと重なるため、3連休の期間中に採用試験が実施されるケースが見られます。もちろん、連休を外して平日に実施されるケースも多いです。



今年度の生徒は夏休み中に登校して、職場見学や履歴書の準備、面接の練習などをしてきた生徒も多くいましたが、まったく登校せず、2学期が始まってからも諸般の事情でスタートの遅い生徒も複数見られました。基本的に職場見学は夏休み中、お盆前までに済ませよう学校としては指導していましたが、職場見学が2学期が始まって9月になってから実施していただいたケースもありました。企業によっては「こんな時期に!」とお叱りを受けるケースもありますが、今年度については、いずれの企業も快くご対応いただきました。しかしながら、やはり基本的にはお盆前くらいまでに済ませるべきと考えます。

1・2年生で就職を希望している諸君は、上記のことを念頭に置いて就職活動をしていけるようにしてほしいと思います。どの企業を受験するかは3年生になってから求人票を探しつつ決めていくとして、今の時点ではどのような業種、職種があるかは調べておく必要があります。

## ■指定校推薦希望者へ



少し遅くなってしまいましたが、3年生で指定校推薦での進学を希望している生徒に対して、先週から入試要項等を配付しています。紙ベースで進めなければならない大学もあれば、WEB出願でまったく紙での入試要項がない大学もありますので、自分が志望する大学がどの形態なのかよく確認して出願するようにしましょう。WEB出願の場合には、基本的に必要書類は大学のホームページから様式をダウンロードする形になるかと思われます。早めに確認しましょう。

指定校推薦は担任の先生に「推薦書」を書いていただかなければなりません。要項がある場合には一緒に様式が綴じられている場合が多くあります。WEB出願の場合には、先にも記したように様式をダウンロードする必要があります。担任の先生方は多くの生徒の書類作成で忙しくなりますので、どの程度の分量を書けば良いか早めに確認してもらいましょう。

志望理由書の内容については、進路指導部でも確認しますので、早めに下書きを確認してもらうようにしましょう。大学によっては事前課題の提出を求められるケースもあります。しっかり準備して良い形で仕上げていくようにしましょう。

なお、専門学校を指定校推薦で希望する場合も入試要項については紙ベースだったり、すべてホームページからダウンロードする形式だったり、学校によって異なるかと思われますので、進路指導部でよく確認するようにしましょう。

今後も指定校推薦や公募制推薦の希望者がいましたら推薦会議を行い、受験者を確定させていきたいと思えます。受験希望者は早めに担任の先生に相談するようにしましょう。基本的に推薦入試は指定校制、公募制を問わず、10月下旬ごろから出願受付が始まる大学があり、11月中に入学試験を実施し、11月から12月にかけて合格発表というケースが多いかと思えます。スケジュールをよく確認して面接の練習等、準備を進めていきましょう。

## ■適性検査を活用しよう！

6月に高校2年生を対象にしたリクルートの適性検査が、近く返却されるかと思われます。自分の適性について、客観的に判断されたものですので、ぜひ参考にしてください。向き不向きなど、自分の意識や考えとはまったく異なる結果もあったかと思われますが、あくまで参考程度とし、自分のやりたいことに向かってチャレンジして行ってほしいと思えます。ただし、適当に回答していなければ、後々になって、「あのときの適性検査は意外と当たっていた」と思うことがあるかもしれません。筆者も適性検査を受けたことがありますが、そのときは「教員に向いている」という結果でした。しかし、その時点ではまったく教師になることは考えておらず、別の職業を考えていました。大学卒業後、希望していた分野の仕事に就きましたが、結局、現在教員として活動しています。人生、分らないものです。

## ■ 模擬試験の活用を！

クラスによって異なりますが、本校では進研模試や基礎力診断テストを1年のうち、数回受験しています。受験した後、まったく復習しないという生徒が多いのではないかと考えられますが、「解答・解説」を有効に活用している人はどのくらいいるでしょう



か？ 試験の得点や偏差値に一喜一憂する気持ちは分かりますが、模擬試験を受験する意義の一つに弱点分野の発見と克服があると思います。近年の入試でどのような問題が主流になっているかをつかむ材料にもなるでしょう。したがって、受験後も徹底的に活用してしっかり自分のものにするという姿勢が大切になります。そのためにも、「模試ノート」を作成してほしいと思います。

例えば、英語の長文読解で使われる文章は、近年の大学入学共通テストや各大学の入試問題を検討して採用された英文ですので、よく分からない単語をチェックし、重要な文法や構文が使われている文章をよく分析することは大切なこととなります（※特に重要語句や重要な文法・構文については、「解答・解説」に詳しく掲載されているかと思えます）。大学入学共通テストを見ていると、近年は文章そのものはそれほど難しくなく、かなりの分量の文章を一定時間で読んで内容を理解しているかどうかを試される問題が多いように思われますので、より速読力をつけておくことが大切になっている印象があります。筆者の進め方で恐縮ですが紹介しますと、模擬試験の問題や志望大学の入試の過去問など本文をコピーして、「①辞書を引かずにひと通り読む→②辞書を引いて精読→③速読→④音読」という流れで文章の内容をつかむように努めました。もちろん、「 」内のような進め方でなくても容易に読める文章もありますが、難関とされる大学の特にかなり長めの文章については、「 」内の4つの流れで進めることを意識しました。1度上述のようにしっかり取り組んでも一定期間たつと忘れてしまうことも多くありますので、2週間とか1か月とか一定期間後、さらに復習するようにしました。これを繰り返すことで学力を定着させていくイメージです。この進め方が今の学習内容にどれだけ適しているか分かりませんが、参考になれば幸いです。

他の教科・科目についても、完璧に理解するまで模擬試験の問題を徹底的に活用するようにしましょう。古文なども同じような形で出題される可能性は十分にありますので、やはり単語や文法のチェックを徹底しておくことでその後の学力向上に結びつけられるものと思います。

本当にただ模擬試験を受けっぱなしにしておくのはもったいないことです。自分なりの活用の仕方でも構いませんので、ぜひ活かして少しでも学力向上につなげ、志望校合格に結びつけられるように努力してください。ちなみに、模擬試験の結果が悪くとも、最終的に志望校に合格できれば良いのです。逆のケースもあり、模擬試験の結果は比較的よくて、「十分合格圏にあり」などという判定が出ていても、本番では不合格だったということもあります。あまり偏差値等に一喜一憂しない方が良いでしょう。

## ■ 昌平祭での出来事



9月10日（日）に開催された公開文化祭、第8回昌平祭は多くのお客様を迎え入れることができ大変な盛り上がりだったと思います。クラス展示やキッチンカーにも行列ができていましたし、ステージ発表も盛況だったようです。久しぶりに母校に駆けつけた卒業生たちに声をかけられたり、長く立ち話をしたり・・・という中で、約15年ぶりに顔を見せてくれたO君が筆者にとっては衝撃的な再会でした。

9月10日（日）のお昼ごろだったでしょうか。赤ちゃんを抱いた若い男性がいきなり職員室に入ってきました。筆者を見るなり、「清水先生！」と声をかけて来たので、在校生の保護者あるいはご家族ではなく卒業生なのだなとは思いましたが、マスクをし、若干高校在学時よりも肉がついたからか、正直なところ、誰だかまったく分かりませんでした。その男性は「O」だと名字を名乗ったのですが、その時点では筆者はまったく違うO君と勘違いしていました。彼がマスクを外して、すぐに「ああ、O君か！ まったく違うO君と勘違いしていた。申し訳ない・・・」。筆者は思わず叫んでしまいました。もちろん、そのO君は筆者が勘違いしていたO君とは年代も違いますし、彼が知る由もありません。マスクを外したO君とはすぐに当時の話に花が咲きました。

O君は非常に素直な生徒で陸上競技部に所属していました。クラス内の仕事をお願いするといつでも「いいですよ」と引き受けてくれる生徒でした。1つ年上のお姉さんがいて、そのお姉さんも授業で関わることもあったからか、筆者に話しかけてくるが多かった記憶があります。とにかく2人とも明るく素直だった印象が強いです。しかし、卒業後はほとんど学校に顔を見せに来ることもなく、空白の期間が長かったからか、先にも記したように職員室にいきなり入ってきたときには筆者はまったくO君だと気づきませんでした。

空白期間が長かったことはもちろんですが、マスクを外した瞬間、すぐにO君だと分かりましたので、私たちは目元だけでなく、顔全体を見て相手が誰かを認識しているのだなということも改めて分かりました。15年という空白の期間が瞬時に埋まり、当時の思い出が次々に話として出てくるのですから筆者にとっても強烈な印象のクラスの一つだったと言えるのかもしれませんが。

O君とは今後連絡を取り、たまに会って酒を酌み交わしたいと思いますし、当時のクラスメートも駆けつけてくれたらうれしく思います。これまで、不定期とはいえ、酒を酌み交わす機会の多かったクラスや生徒も多くいましたが、O君のクラスの生徒たちは個性的なキャラクターが多く、我が道を行くタイプの生徒も複数いたため、なかなかクラス全体でまとまることなく、当時は筆者も腐心しました。みなさん大人になったでしょうから、今となっては笑い話になるのではないかと思います・・・。

さて、ただの偶然だとは思いますが、この9月中には他にも10年以上前の卒業生と顔を合わせる機会が複数回ありました。「仕事は忙しいけど、がんばっている」とか、「昌平の卒業生と結婚して、いま子どもが2人いる」とか、「先生の家近くから引っ越して、いま〇〇に住んでいる」などなど。こういった話を書くときにはいつも感じるのですが、時間は確実に進んでいて、それぞれの人生を歩んでいるなど感じさせられます。在校生のみなさんも、卒業後も学校に顔を見せてもらって何らかの近況報告をしてもらえれば、筆者に限らず先生方はうれしく感じると思いますよ。 文責：清水聖（進路指導主事）